

工

Kodai

1 ●ごあいさつ

同窓会会長  
学長  
工学部長  
建築学部長・建築学科長  
ライフデザイン学部長

秋元 俊通氏  
今野 弘氏  
小林 正樹氏  
石井 敏氏  
小祝 慶紀氏

4 学科長

電気電子工学科 学科長  
情報通信工学科 学科長  
都市マネジメント学科 学科長  
環境応用化学科 学科長  
産業デザイン学科 学科長  
生活デザイン学科 学科長  
経営コミュニケーション学科 学科長

内野 俊氏  
工藤 栄亮氏  
須藤 敦史氏  
山田 一裕氏  
堀江 政広氏  
大沼 正寛氏  
宮曾 根美香氏

6 ●研究所紹介

- 7 ●支部活動等報告・学科だより
- 10 ●インフォメーション
- 11 ●同窓会からのお知らせ

大

Jin!

大



オンラインによる授業風景

## ご挨拶



東北工業大学同窓会 会長

秋元 俊通 (あきもと としみち)

1975年 土木工学科卒業(5回生・菊地研究室)  
現在 株式会社 秋元技術コンサルタンツ  
代表取締役  
土地家屋調査士 秋元俊通事務所  
所長

東日本大震災から9年半が経過、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の製造品出荷額等は震災前の水準まで回復しているとの報告があり、確かに宮城県では復興の最終年を迎え概ね復興目標を果たせそうですが、原発被害のあった福島県では縮小したといっても未だ帰還困難地域があり、水産物の風評被害も回復しておらず、未だしの感があります。

また、昨年から続く全国各地での雨災では多くの被害が頻発しており、こちらは早めの避難しか対応策がない現状で、先行きが見えません。

そのうえ、本年1月からの新型コロナウイルス感染拡大では、東日本大震災の復興オリンピックと銘打たれた世界の祭典も延期され、今後の感染収束の行方も不明な現状です。

このように先行き不透明な年ですが、私たちは自らの健康や安全に最大限の注意を払いながら、我々に与えられた使命を果たし、社会再生のために活躍して行くではありませんか。

昨年、我らの母校は創立 55 周年を迎え、新たに打ち出した5か年計画「TOHTECH2023」の寄付金の募集について、当同窓会といたしましても、1千万円の寄付を予定しております。会員皆様にもご寄付のご協力を大学になり替わってお願い申し上げます。

また、感染拡大が報じられるや否や、母校では各種式典や行事を中止したり、オンライン授業の実施等

の対策を講じてくれましたし、各種の学生への緊急経済支援を実施されております。当同窓会といたしましても、この経済支援の一助になればと、こちらにも1千万円の寄付をさせていただきました。しかしながら、それでも学生会員が新型コロナウイルスに感染する事態が発生したことは残念でしたが、その後の拡大には至らず一安心をしているところです。

当同窓会といたしましては、やはり新型コロナウイルス感染拡大を避けるために、役員会をeメールで実施し、最小限の人員での会議や活動に留めてまいりました。その一環として、10月に計画している同窓会総会もホームページや機関誌「工大人」を活用し、議案を書面による決議とさせていただくことになります。また、やっと産声を上げた「山形支部」や「関東支部」には大いに力を注ぎたいところではありますが、残念ながら延期ということになります。

母校の歴史と伝統そして発展は私たち3万6千人の同窓生の拠り所ですし、母校あつての同窓会でもありますので、今後も母校には大いに貢献してまいる所存でおります。会員の皆様のご賛同を期待しております。当同窓会も、まもなく創立 35 周年を迎えます。これまでの会員各位からお寄せいただきました深いご理解と篤いご支援に感謝申し上げますと共に、皆様の今後益々のご健康とご活躍を祈念いたし、挨拶に代えさせていただきます。



「学びの緊急支援対策」への協力



WEB オープンキャンパスの広報

## コロナ禍を教訓とした 大学の新しい日常に向けて



東北工業大学 学長  
今野 弘 (こんの ひろし) 氏  
1971年 工学部土木工学科卒業  
1980年 工学博士(東北大学)  
1980年 東北工業大学工学部土木工学科 講師  
1995年 同工学部土木工学科 教授  
(現都市マネジメント学科)  
2008年 同副学長  
2016年 同大学学長

本学同窓会のみなさまには、本学の運営に関しまして、ご支援、ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。また「TOHTECH2023」事業の醸金のご協力、ならびにこの度の新型コロナウイルス感染症にかかる本学の学生支援事業に対する寄付金のご恵贈に対しましても改めて感謝申し上げます。

2020年は、新型コロナウイルス感染症が全世界の人々の健康や社会活動に猛威を振るい、いまだに終息の兆しが見えない状況にあります。そのような環境の中においても、本学卒業生の皆様には各分野、地域においてご活躍のこととお慶び申し上げます。本学は学部学科の再編が叶い、「TOHTECH2023」の2年目を迎えています。コロナ禍による「大学の新しい日常」に直面しています。

今般のコロナ禍に対しては、学生と教職員および関係する周りの多くの方の命と健康を守ることを基本方針とし、人材育成のための教育の維持、社会貢献の継続に取り組んでいます。卒業式や入学式など式典の中止と、できる限りオンライン化による対応をとり、遠隔授業を中心とした教育をスタートさせました。この間、ICT環境の調査に基づいた整備と支援、一方で遠隔授業の準備と教材作成、研修や実験実習系を中心とした一部対面授業の実施など、受講する学生と教育を担う教職員の双方にとって、努力と創意工夫が求められました。

7月には本学学生が学外でコロナウイルスに感染する事態があり、多くのみなさまにご心配をおかけしまし

たこと改めてお詫び申し上げます。感染学生はすでに全員快復して学業に励んでいます。今後とも心身の健康観察、その指導を継続します。また幸いに学内での二次、三次の感染は確認されず、本学での感染予防や拡大防止策が功を奏した結果となり、ひとまず安心しています。

今般の新型コロナウイルス感染症問題は、社会システムの大きな変革の必要性を投げかけています。テレワークや単身赴任の再考など「働き方改革」を改めて考える機会となりました。大学にとっても、教育研究および社会貢献活動に「新しい日常」が求められています。教育では、遠隔授業の特徴が大きく生かせる分野と、実験・実習系や演習・制作系が多い学部学科編成の大学では新しいスタイルを開発する必要があるようです。

学生時代の特徴のひとつは、学内外の課外活動や研修活動であり、授業科目の他にも多様な環境設定が、若い世代である学生を育てる大学の大きな使命です。ウィズコロナの時代にその使命をどのように果たすかという点が、大学として求められている点のひとつです。今は、新型コロナウイルスの感染は日本全国に拡大し、数も増えていますので、いまやどこでも、誰でも感染するリスクがあります。「新しい日常」をひとり一人実践することが、感染防止の最善策であり、感染拡大防止策でもあります。今般のコロナ禍を教訓として、大学教育においても「新しい日常」を探りたいと考えています。



キャンパス入り口に設置された体温チェック用のアラーム機能付きサーマルカメラ



令和2年度 入学セレモニー



各教室でのライブ配信

## 工学部におけるウィズ コロナの現状と今後

工学部長

小林 正樹 (こばやし まさき) 氏

1961年 長野県生まれ  
1985年 東北大学工学部電気工学科卒業  
1986年 新技術開発事業団(現科学技術振興機構)  
1991年 山形県テクノポリス財団、(株)生体光情報研究所を経て  
2000年 東北工業大学工学部電子工学科助教授  
2006年 同教授  
2016年 工学部長



コロナ禍という先の見通せない未曾有の災禍に際しまして、同窓会の皆様におかれましては様々な形で影響を受けていることと、お見舞い申し上げます。本学にあっては卒業式及び入学式の中止、全授業のオンライン化という、これまで想定すらし得なかった形で新学期を迎えました。また7月には学生の感染が判明し、一部開始した実験や実習科目での対面授業を全面ストップするなど、大学として重大な危機管理が迫られる状況も発生しました。同窓会の皆様には多大なるご心配をおかけしましたが、幸いにも学内での感染拡大を防ぐことができ、また全教職員が一丸となって緊急対応した結果、前期の授業カリキュラムを終えるところまで至りました。多くの同窓会諸氏より暖かい励ましのお言葉を頂戴しましたこと感謝申し上げます。

世界的パンデミックが認識されてから前半が過ぎようとしています。大学でもこれまでの非日常が新しい日常に取って代わりつつあります。オンライン授業は多くの教員が手探りの状態から始めましたが、本学が教育の特色としている個々の学生に対する「面倒見の良さ」をリモート環境の中でどう実現するのか、どのようにしてすべての学生の学修への興味を引き出し、関心を高め、学修の継続につなげていくか、すべてにおいて初めて経験する課題でした。工学部ではその中において、教員同士がお互いに事例を紹介したり、議論したり、情報共有しながら大学が一体となってこの緊急事態に対処して参りました。学生たちは制限された環境下にあっても状況をよく理解し、我々が考えていた以上に積極的にコロナ下でのオンライン授業に取り組んでくれました。この危機的状況の中で、学生も含めた大学の一体感が醸成されたことは今後に向けての大きな収穫です。同窓会の皆様も共に、「工大人」としての一体感の中でお互いに支え合いながら乗り越えていきましょう。今後ともご理解ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



工学部教員のオンライン授業の様子

## 建築学部誕生

建築学部長・建築学科長

石井 敏 (いしい さとし) 氏

1969年 米国生まれ 静岡県出身  
2001年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 博士後期課程修了  
2001年 東北工業大学工学部 建築学科 着任  
2010年 東北工業大学教授  
2014年 東北工業大学建築学科長  
2020年 東北工業大学建築学部長兼建築学科長



本年4月より建築学部がスタート!構想10年の大事業でしたが、同窓会の皆さまには力強い励ましとご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。建築学部一期生161名を迎えました。学部として建築学をより広がりを持ってアピールした結果、今まで以上に本学科が求める多様な学生が入学しました。これまで20%前後だった女子比率は28%に伸びました。また、合わせて菊田貴恒准教授(建築材料、本学科同窓生)、および佐々木留美子講師(建築生産)の2名の新教員も迎えました。いずれ皆さまにご紹介する機会があればと思っております。

さて、にぎやかにスタートを切りたかったところですが、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた前期でした。入学式も挙行できず、予定より3週間遅れてオンライン授業が開始されました。1年生は大学生になった実感も十分に持てぬまま現在に至っており気の毒な状況にあります。ただ、一部課題は残しながらも、通常と変わらない、もしくはオンラインの特性を活かして今まで以上の質の授業を提供できたとも考えております。

4月以降、担任によるオンラインでの個人面談を実施し、個々の状況把握にも努めました。また、丁寧かつ頻繁に情報発信を行い、オンラインでのやりとりを密にとりながら、学部意欲の維持・向上を目指しました。オンラインでの建築講演会も毎月実施しました。

とは言えコロナの影響は今後も続くでしょうし、教育のニューノーマルに向けての検討も不可避です。確かに学修はオンラインでも可能ですが、人間教育は対面の中でしかできないこともあります。何より、そこに人がいることを感じながら、人と人とのつながりを大切にする建築学ですから、オンラインだけでは重要なことが欠落してしまう危惧も覚えます。コロナと向き合い、折り合いをつけながらの新しい建築教育の模索が喫緊の課題です。引き続き、同窓生の皆さまには本学部の教育研究においてご協力を賜りたくお願い申し上げます。次(建築学部開設記念パーティーは来年(時期未定)に延期します)



1年生全員から集めた夢・目標

## 新型コロナウイルス対策と学生生活について

ライフデザイン学部 学部長

小祝 慶紀 (こいわい ひろのり) 氏

1988年4月 日本道路株式会社入社  
2011年4月 東北工業大学工学部環境情報工学科准教授  
2016年4月 東北工業大学ライフデザイン学部  
経営コミュニケーション学科教授  
2020年4月 東北工業大学ライフデザイン学部長



同窓会の皆様におかれましては、日頃より有形・無形のご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、ライフデザイン学部の3学科のうち、「クリエイティブデザイン学科」が「産業デザイン学科」、「安心安全生活デザイン学科」が「生活デザイン学科」へと名称を変更しました。「名は体を表す」の言葉ではないですが、これにより、時代のニーズにマッチし、これまでよりさらに学科の特色を明確に示すことができました。「経営コミュニケーション学科」を加えて、新たなライフデザイン学部として歩いていくこととなりました。

産業デザイン学科は、生活を美しく豊かにするアイデア、それを実現するプロセスを学ぶことを目的としています。生活デザイン学科は、住環境デザインから福祉まちづくりまで、人間生活と地域社会の関係、その課題や可能性について探求、共創を学ぶことを目的としています。経営コミュニケーション学科は、社会に出て必ず必要になる経営学、コミュニケーション学、ICT（情報コミュニケーション技術）関連の科目を幅広く学ぶことを目的としています。

そうして4月、新たな2学科と経営コミュニケーション学科では、それぞれ多くの新入生を迎えることができました。新入生は希望に燃え、大学生活へ夢を膨らませていました。そこへ、新型コロナウイルスの感染が全国に広がりました。本学部もその影響により、新入生だけでなく2年生から4年生まで、従来の対面での授業ができなくなり、リモート（オンライン）での授業へと切り替わりました。また大学への入構も制限されました。特に4年生は就職活動を始めようとした矢先です。そこで学部の3学科では、それぞれ学生とのつながりに努め、アンケートを実施するなど学生の現状把握をしてきました。アンケートでは、全学年とも当初オンライン授業について、インターネット接続環境への不安などの声がありました。しかし、現在ではオンライン授業のメリットも感じるなど、学習意欲が高まっている傾向にあります。一方、他学生との交流と、それによる学びがないことに物足りなさを感じている学生も少なからずいます。

新型コロナウイルスの感染拡大は、大学だけではなく、経済成長も戦後最低を記録するなど社会・経済活動へも大きな影響を与えています。経済学では、経済を「ヒト・モノ・カネ」と表現します。まず第一は「ヒト」です。コロナ禍の状況下にあっても、私たちは、同窓の皆様が培ってきた人材育成と、本学の建学の精神である「わが国の、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する」ことを実践し、「人間・環境を重視した、豊かな生活のための学問を創造し、それらの統合を目指す教育・研究により、持続可能な発展に寄与する」人材を育て、SDGsやSociety5.0、さらにはWith&After Covid時代の社会・経済にあるべき産業・生活・地域デザインの研究教育を構築するための「ヒト」の育成を行っていきます。

新型コロナウイルス感染の影響は、長期化が懸念されています。今後も学生の皆さんが、健康で本学部の所期の教育を受けて成長できるように、努力を傾けてまいります。同窓の皆様におかれましては、今後ともご支援・ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## コロナの時代の大学生活

電気電子工学科 学科長

内野 俊 (うちの たかし) 氏

1989年3月 筑波大学大学院博士課程修了、工学博士  
1989年4月 株式会社製作所中央研究所入社  
2002年7月 英国サウサンプトン大学上席研究員  
2011年4月 東北工業大学教授



卒業生の皆様方には新型コロナウイルス感染症の拡大による厳しい状況のなか、ご支援をいただき、ありがとうございます。

本学科は今年度146名の新入生を迎えることができました。コロナ禍の影響で例年実施している学外オリエンテーションは中止し、教室から入学セレモニーをオンラインで視聴するという形をとりました。1年生の多くは、その日以来キャンパスに通えない状況が続いています。就職に関してもコロナ禍の影響で、昨年と比較して10ポイント程度低い内定率になっています。オンライン面接や感染拡大地域への移動など4年生は未曾有の状況にあります。後期からは、実験や卒業研修など一部の授業を対面形式で実施する予定ですが、基本的にはオンライン授業が続きます。

我々は、ウィズコロナの状況が長く続くことを覚悟し、感染拡大防止対策をとりながら、教育・研究活動を実施するという新しいモデルに取り組んでいく所存です。今後も卒業生の皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願い致します。

## 情報通信工学科のウィズコロナ

情報通信工学科 学科長

工藤 栄亮 (くどう えいすけ) 氏

1988年 日本電信電話(株) 入社  
2001年 東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻 助教授  
2009年 東北工業大学工学部情報通信工学科 教授  
2018年 東北工業大学工学部情報通信工学科 学科長



同窓生の皆様には日頃よりご支援いただき感謝申し上げます。2020年3月に通信工学専攻長・図書館長を歴任された野本俊裕教授が退官され、4月より無線電力伝送・アンテナ電磁界解析に関する研究をされている袁巧微教授と宇宙電磁波計測に関する研究をされている北元講師をお迎えました。

2020年度前期はほとんどがオンライン授業となり、新入生は入学式以降、前期は大学に入構できませんでした。オンラインだと優秀な学生の理解が深まる反面、学生同士のつながりが希薄になりますので、少人数のセミナーにおいて、オンライン上で自己紹介を行ったり、受講状況が芳しくない学生には教学アドバイザーより個別に電話連絡したり、ケアも行っています。後期からは一部対面授業も実施される予定です。コロナ禍によって、情報通信技術者の活躍の場はむしろ広がっています。今後も優秀な技術者の育成を目指し努力し続ける所存ですので、引き続き皆様のご支援をよろしく申し上げます。

## ウィズコロナと 今後について

都市マネジメント学科 学科長

須藤 敦史 (すとう あつし) 氏

1982年 株式会社地崎工業 (現岩田地崎建設株) 入社  
1990年 武蔵工業大学 (現東京都市大学) 客員講師  
1998年 北海道大学非常勤講師  
2017年 東北工業大学教授



同窓生の皆様には日頃よりご支援いただき感謝申し上げます。都市マネジメント学科は、今年3月に67名の卒業生(50回生)を送り出し、4月には101名の新入生(54回生)を迎えました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、卒業・入学セレモニーも別室での視聴となり、現在1~4年生の在学生は411名で、うち女子学生は28名となりました。

新型コロナウイルスの感染拡大は、これまでの生活様式を大きく変える出来事であり、建設分野ではIT化による生産性の向上や効率化が加速し、拡大してゆくものと考えられます。

一方、気候変動は進行しており、各地で自然災害が多発しています。東北地方においても、10月の東日本台風による大洪水など、自然災害の多い年となりました。自然災害を防ぐこと(防災)、軽減すること(減災)で、住まう人の生命や暮らしを守ることは土木技術者の社会的責任であり、加えて社会資本の品質の確保、長期的な維持管理など、社会のニーズに合った教育を目指して、今後も努力を重ねていく所存ですので、引き続きご支援をよろしく申し上げます。

## 「環境応用化学科」 がスタートしました

環境応用化学科 学科長

山田 一裕 (やまだ かずひろ) 氏

1964年 大阪府生まれ  
生活協同組合都民生協、青年海外協力隊(モロッコ)派遣  
東北大学工学部助手・講師、岩手県立大学総合政策学部  
准教授・教授  
2010年 本学環境情報工学科 教授  
2018年より現職、水環境保全技術の研究に携わる



同窓生の皆様には日頃よりご支援いただき感謝申し上げます。

昨年ご報告したとおり、2020年度から環境応用化学科として新たにスタートしました。おかげさまで、第一期生については定員65名を満了し、76人(うち女子学生10人)となりました。ただ、コロナ禍によってオンライン講義となり、新入生はじめ、学生と顔を合わせる機会がほとんど無いまま夏休みに入りました。後期においては表情を読み取りながら指導できるように工夫をしたいところです。

さて、就職活動を進めていた4年生については、対面式でない就職試験や面接が増え、東北人の良さが伝わりにくいのではないかと心配していましたが、その中でも4年生は時間を有意義に活用してくれたことにより、内定率は堅調に推移しています。

同窓生の皆様の生活や職務環境にも大きな変化があったかと存じますが、これまでと同様、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

## ウィズコロナの課題 解決のためのデザイン

産業デザイン学科 学科長

堀江 政広 (ほりえ まさひろ) 氏

1971年 東京生まれ  
2007年 多摩美術大学大学院美術研究科 博士前期課程修了  
2008年 東北工業大学クリエイティブデザイン学科 着任  
2013年 東北大学大学院情報科学研究科 博士後期課程終了  
2016年 東北工業大学クリエイティブデザイン学科 教授



社会から求められている「デザイン」の役割が、「ものの色や形のデザイン」に加えて、「システムやサービスなどを含め領域融合的にデザインすること」へとなっています。

工業意匠学科・デザイン工学科からの流れを汲むクリエイティブデザイン学科は、今年度より産業デザイン学科に名称を変更し、新たなスタートを切りました。その矢先、コロナ禍の影響のため、前期の授業がオンライン授業となりました。アイデア発想法を学ぶ演習授業では「コロナ禍における学生生活」をテーマにグループディスカッションをし、様々なアイデアを発想しています。卒業研修では、「ウィズコロナ」を前提としたものが目立ちます。様々なオンラインサービスを利活用した経験を活かし、新たな価値創造の担い手となるよう、未来の成長産業の創出と発展に貢献する人を育成して参ります。同窓会員の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 守るべきものと 変えるべきこと

生活デザイン学科 学科長

大沼 正寛 (おおぬま まさひろ) 氏

2012年 東北工業大学ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科 准教授  
2016年 東北工業大学ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科 教授  
2018年 東北工業大学ライフデザイン学研究科デザイン工学専攻 専攻長  
2020年 東北工業大学ライフデザイン学部生活デザイン学科 学科長



今年度から学科名を新たにすると同時に、学科長を拝命いたしました大沼正寛と申します。業務の全貌を把握せぬままのウィズコロナは、辛いものがありましたが、心機一転して取り組みました。新1年生は92人、在学学生284人。「だれ一人取り残さない」という信念のもと、各学年担当が毎日メール連絡を重ね、オンライン授業を実施する一方で、紙面での演習課題や簡易用具を送付する「SDパック〇月号」も運用いたしました。

発した内容は学生らに伝わったのか。伝えるべきことは何か。この未体験の日々は、各局面での発言・行動を再考する機会となりました。ただ、コミュニケーションを支えた視・聴・脳に対し、臭・味・触(気配や体験)が犠牲となり、「心」は不安に陥った面があります。この状況で何を守り、何を变えていくのか、生活デザイン学の課題は一気に増えました。学生という将来の生活デザイナーとともに、楽しく考えていきたいと思ひます。

## 働き方や生き方をシフトできる人材の育成を

経営コミュニケーション学科 学科長

宮曾根 美香 (みやそね みか) 氏



国際基督教大学卒業  
デュポン株式会社入社  
ニューヨーク大学教育学部大学院修士課程修了  
東北大学大学院教育学研究科博士課程修了 博士(教育学)  
2007年 東北工業大学教授  
2020年 東北工業大学ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科  
学科長

経営コミュニケーション学科は 2008 年度の開設から 13 年目を迎え、学科の存在も広く認知されるようになりました。これも同窓生の皆様のおかげだと感謝しております。

コロナ禍で、学生達はこれまでとは異なるコミュニケーションに適応することが求められています。オンラインで授業を受講し、課題を提出したり、オンラインでミーティングに参加したり、面接を受けています。ICT 入門、ドキュメントコミュニケーション、クリティカルシンキングをはじめ、授業で習った知識やスキルの重要性を実感したことでしょう。経営における変化にも目を向け、キャリアについて改めて考えたことと思います。

新型コロナウイルスのパンデミックにより、私たちはフレキシブルな働き方や生き方を半ば強制的に行うことになりました。今後もデジタルスキルを活用し、表現力と説得力を高め、柔軟性と調整力を備えた人材を育成するために、教職員一同力を尽くします。

これからもご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

## 研究所紹介

東北工業大学は、学内のシーズを結集して異分野融合による 15 のプロジェクト研究所を設置しております。地域のニーズを取り入れ産学連携による社会実装を推進します。連携パートナーを募集していますので、ご興味のある方は各研究所の連絡先へコンタクトをお願いします。

### 生体医工学研究所

「医療を工学で支える先端医工融合領域研究所」

所長 小林正樹 (電気電子工学科 教授)

### AiR 研究所

「企業様のニーズに合わせた AI を開発します」

所長 鈴木郁郎 (電気電子工学科 准教授)

### ICT システム研究所

「幅広い分野にわたる ICT 研究教育拠点」

所長 工藤栄亮 (情報通信工学科 教授)

### 北欧デザイン研究所

「なぜ北欧が注目されるのか？」

所長 石井敏 (建築学科 教授)

### 制振工学研究所

「次世代高性能制振装置を開発する」

所長 薛松濤 (建築学科 教授)

### 東北産業デザイン研究所

「東北らしい優れた東北発デザイン商品の創出」

所長 坂手勇次 (産業デザイン学科 教授)

### 生業景デザイン研究所

「この地に向かう生業は先駆。この地で育てる生業景は文化」

所長 大沼正寛 (生活デザイン学科 教授)

### プレアデザイン研究所

「東北のクリマデザイン建築の研究」

所長 武山倫 (生活デザイン学科 教授)

### 地域のくらし共創デザイン研究所

「共に新たな価値を創り自律したくらしを！」

所長 伊藤美由紀 (生活デザイン学科 准教授)

### Well-Being 研究所

「「幸福」を学際的に考える」

所長 金井辰郎 (経営コミュニケーション学科 教授)

### マーケティングサポート研究所

「学生参加による地域中小企業の商品開発・販路開拓」

所長 佐藤飛鳥 (経営コミュニケーション学科 准教授)

### 知能ロボティクス研究所

「生活や地域に貢献するロボット技術の開発」

所長 藤田豊己 (電気電子工学科 教授)

### IoT テクノロジー研究所

「ワイヤレスで、電池なしで世界を繋げる！」

所長 袁巧微 (情報通信工学科 教授)

### ICT 教育活用研究所

「情報通信技術を使った教育改善」

所長 鈴木健一 (情報通信工学科 教授)

### 東北景観研究所

「東北の景観の魅力や特質を再定義し地域に発信」

所長 不破正仁 (建築学科 准教授)

プロジェクト研究所の  
Web サイトはこちら▶



プロジェクト研究所 キックオフ発表会 (令和元年9月開催)

【青森支部】

新型コロナ禍の中で

同窓会青森県支部事務局会計

工藤 孝喜 (くどう こうき) 氏

1986年 土木工学科卒業(16回生・伊藤孝雄研究室)  
現在 有限会社東豊設計

東北工業大学同窓会青森県支部は昨年2019年(令和元年度)の6月に、渡辺浩文副学長他2名のパネリストを迎えシンポジウムを行い、また同窓会も盛大かつ和やかに終えることが出来ました。

今年は新型コロナウイルス感染症(青森県は3月23日に1例目)により表立った活動ができない状況となっておりますが、同窓会会員は元気にしている次第であります。

さて、このコロナ禍のなかでの一泊二日の小移動についてお話ししたいと思います。令和2年4月7日に緊急事態宣言が発令され、青森県では同16日に解除されましたが、特定の都市では5月25日の解除まで待つこととなりました。例年であれば大勢の観光客でにぎわう桜まつりも中止となり、自粛のゴールデンウィークも終わりを告げた5月8日の夕方に三男のアパートの大家さんから連絡がありました。隣人との騒音問題が発生しており本人が精神的に参っているのではないかと言うものでした。大学も授業が休講とリモートになり始めてあり、またアルバイトのスポーツジムも休みと聞いていたので状況を確認して、本人の様子が悪しければ連れ戻そうかと思い、5月10日の日曜日に大学のある三重県鈴鹿市まで出発いたしました。

した。

本来であれば青森→名古屋は飛行機で1時間半で行けますが、当時は飛行機も休便となっており、新幹線での5時間半の移動となりました。驚いたことに東北新幹線は乗客4人(東京まで)東京駅構内もいつもの様な混雑はなく、東海道新幹線への乗り継ぎもスムーズに出来ました。面白いことに在来線の名古屋→鈴鹿市の急行のほうが新幹線より混んでおりました。

さて、本人とも会いましたが、拍子抜けするほど元気な様子(見た目は)でした。大家さんと相談して下の角部屋が空く予定なのでそちらに引っ越しすることで決まりました。初めて三男の部屋に泊まり、翌朝早々に帰路に着きましたが、静岡付近で地震による緊急停車も経験し、緊急事態宣言の中での貴重な経験をする事となりました。移動中は限られた人との接触しかなかったものの、青森に着いてからの2週間は完全なステイホームもままならず、多少不安もありました。

まだ先の状況も判らない日々が続いておりますが同窓会会員および、皆様方におきましては感染対策をしっかりして過ごし、令和3年度にはまた、笑顔でお会いしましょう。



【新潟支部】

新潟支部活動報告

新潟支部会長

動山 憲一 (どうやま けんいち) 氏

1976年 土木工学科卒業(6回生・盛合研究室)

2020年は初頭よりCOVID-19感染症のパンデミックにより、社会・経済・私たちの生活様式に甚大な影響を受けて、ウイルスとの戦いが真最中の昨今、今後の展開はまだまだ分かりませんが、係る状況下に於いて新潟県支部の活動の制限が余儀なくされ、当支部では、今年度の総会の中止と活動の当面の自粛を決定しました。前年度の事業報告・決算は紙面・ICTでの支部監事、幹事の確認、了承を受け総会に代え、本学同窓会のホームページへの掲示により支部会員へのご理解、ご確認をして頂く事としました。

今後の新たな活動については、COVID-19の収束を見極め事業計画に準備を進めたいと考えております。

最後に、本学においては新型コロナウイルス感染症の対応に係る行動指針(BCP)の危機レベル引き下げ対応の中、当支部会の活動に秋元同窓会長をはじめ、同窓会事務局の多大なるご支援、ご理解を頂き心より感謝申し上げます。

COVID-19の1日も早い収束・有効ワクチンの開発を祈りつつ同窓会の皆様のご健康と社会の安寧を祈念し支部活動報告とします。

## 【北海道支部】

# 新型コロナウイルス 感染症の影響

北海道支部長

山口 龍彦 (やまぐち たつひこ) 氏

1974年 土木工学科卒業(4回生・大沼研究室)  
元札幌市役所勤務

令和2年も残すところ4か月になりましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。

昨年12月7日に20名ほどが参加して、本部総会報告を兼ねた忘年会を開催した際には、来年の北海道科学大学(旧北海道工業大学)との交流戦に併せ、毎回開催している大学関係者との懇親会でお会いしましょうと約束したのですが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、残念ながら中止となってしまいました。

北海道のコロナウイルスの感染状況を思い出してみますと、1月下旬に中国武漢からの観光客一人の感染が確認され、その後、札幌雪祭りや道内の冬のイベントに大勢の外国人観光客が訪れている事もあって、2月中旬から後半にかけて第1波がきて北海道知事が『緊急事態宣言』を発表しました。3月下旬には減少傾向が見られましたが、4月に入り更なる感染拡大が広がり、5月の連休には第2波のピークに達しました。

学校関係では新年度の入学式も行えず、6月になって時短状態で再会されましたが、その影響で短い夏休みになり子供たちは淋しい夏になったようです。また、東京オリンピックは3月末に1年

延期の方針が出され、札幌でもマラソンとサッカーが行われる予定で楽しみにしていたのですが残念でした。しかし、マラソンコースの整備予算が付いているためか、全コースのオーバーレイが行われたことに、何か違和感を覚えたところです。

今年は同窓会総会が書面審議なるとの事。毎回支部会員数名に参加して貰い、報告を兼ねた忘年会を開催していますが、果たして今年の開催が可能か心配しているところです。早急にワクチンや特効薬の出来ることを祈るばかりです。



## 【山形支部】

# 令和2年\_特別な年?

山形支部事務局長

石山 徳昭 (いしやま のりあき) 氏

1982年 建築学科卒業(13回生・佐賀研究室)  
現在 有限会社石山設計事務所 代表取締役

令和元年11月9日、山形県内の工大卒業生による同窓会山形県支部が設立されました。

それからわずか数か月後、中国国内に謎の感染症が拡大しているとのニュースが世界中に発信され、当時は「遠く中国での話だ」などとあまり気にも留めず、普段通りの生活を送っていましたが、事態は急速に拡大し、あっという間に世界中に新型コロナウイルス感染症が広がりました。4月には自粛要請後、緊急事態宣言が出され、ほぼ経済活動がストップ。巣ごもり状態が続きました。新型コロナウイルスに「COVID 19」と名付けられています。今では新型コロナウイルスの方が通りが良さそうです。

この感染症の為、当初計画していた令和2年度の支部活動の目玉である「円卓会議」は完全にストップ。コロナ禍の中、同窓会支部としてどのような活動ができるのか仲川支部長と模索するも、なかなか前進せず、大変な事態になってしまったと感じています。

アフターコロナを考え、支部内での情報共有のあり方や総会の持ち方など、検討すべき課題は山積みですが、まずは

手始めに、立ち上げたばかりの支部の為、役員間のコミュニケーションを確保することが必要ですので、リモートによる役員会が開催できないか検討中であります。

国内では、コロナ禍の中、テレワークやリモートなどデジタル技術を利用した活動が急速に拡大しています。我々もただ、漫然と時を過ごすことなく、次なる一手について支部役員・会員一丸となって知恵を絞っていきたくと考えています。今後共、会員皆さんからのご支援、ご協力をお願い申し上げ報告といたします。



【関東支部】

## 2020 東北工業大学同窓会 関東支部報告

松本 有 (まつもと たもつ) 氏

1977年 工業意匠科卒業(7回生・小田研究室)  
現在 デザインファーム  
株式会社フォルム 代表取締役社長  
福楽門上海有限公司 董事長

新型コロナウイルス感染症の影響は業種業態にかかわらず、全世界的な影響が出て9か月を過ぎようとしています。東北工業大学の同窓会の皆様も様々な状況下にご苦労されているのではないのでしょうか。

昨年11月23日に東京都千代田区の「如水会館」で「第2回関東圏東北工業大学同窓会の集い」及び「関東圏円卓会議」が、盛大に開かれました。そこで、関東支部の設立が提案され、井出幸成氏(工業意匠科・2回生)が関東支部支部長に選出されました。

しかし、新型コロナの影響で関東支部は、現在も活動を始めることが出来ない状況です。

そこで、関東支部長の井出氏に御了承を頂き、私、松本有(工業意匠科・7回生)が、新型コロナウイルス対策社会活動をしたことをご報告させていただきます。

私は、株式会社フォルム(デザイン開発会社)を創業して、今年で36年になります。ここまでに航空、医療、生活関連など、20業態のデザイン開発に携わらせて頂いています。特に医療分野においては、感染制御分野のデザイン開発を行って来たことから、今回の新型コロナウイルスに関して地元千葉市に対して「社会的弱者(高齢者、妊婦、等々)と医療従事者を守る

ため、不足が予想されるマスクの確保」の提案をし、副市長、保険福祉局局长と打合せの後、マスクの確保に走りまわりました。すでに中国では、アメリカやヨーロッパが「国としてマスク確保」に動いている中、私たちは一企業として中国のマスク工場との交渉をし、やっとのことで目標の30万枚の確保をしました。また、混乱状態に入っていた航空輸送の確保もして、千葉市保健所に納品することが出来ました。新型コロナウイルスの収束にはまだ時間がかかると思いますが、皆さんとの協力の下、一日でも早くそのような社会を迎えたいと思っております。



千葉市保健所でのマスクの検品

## 学科だより

### 建築学部開設記念の行事の延期について

建築学部長・建築学科長

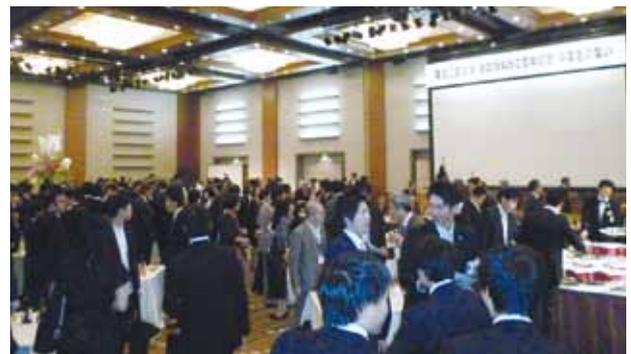
石井 敏 (いしい さとし) 氏

おかげさまで本年4月より建築学部が無事開設しました。学部開設を記念しての行事を4月18日に予定しておりました。2月下旬、まさに翌朝に関係者皆さまにご案内状を郵送する準備を整えたところでしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を受け、発送見合わせを決断しました。3月以降の状況は皆さまご存じの通りで、4月開催を断念し、5月16日に延期いたしました。しかしながら、状況好転の見込みがないことから、再び11月21日に延期を決めてご案内を差し上げていたところでした。

その開催日も迫ってきましたが、皆さまにお集まりいただき歓談を主目的とするような行事の実施は当面は困難と判断し、11月の開催も断念いたしました。

もはや開設記念でもないだろう、という気になりますし、中止と決めるのも簡単ではありますが、1周年記念になっても、2周年記念になっても…いずれ皆さまにご報告する機会を持ちたい、という思いは変わっておりません。先の状況は全く見通せませんが、然るべき時期に、然るべき形で開催したい意向のもと、「開催時期未定での延期」とさせていただきますこととしま

した。賑やかに集い語らう場はこれからどうなるのか、どうやったら開催できるのか、新しい形の模索も必要かもしれませんが、やはり最後に必要なのは直接的なコミュニケーションだと思っておりますので、その開催が可能となる状況を待つことといたします。その時期が来たら、卒業生の皆さまにはあらためてご案内させていただきます。お会いできる日を楽しみに待ちたいと思います。皆さまにおかれましても、くれぐれもご自愛のほどお祈り申し上げます。



2016年の建築学科50周年記念パーティーの様子(皆さんと再び集えることを祈って)

## 東北工業大学と仙台南高等学校の高大連携

東北工業大学と仙台南高等学校の高大連携事業は、菊地良覚副学長を会長とする学校法人東北工業大学連携連絡協議会（以下、「KJ協議会」と称します）を中心に行われています。KJ協議会には、高大連携企画や大学・高校間の課題に応じた分科会やWGを設置しており、各々が関係する教職員メンバーで構成されています。

仙台南高生のみを対象とした「テクノフォーラム」は、大学での学びに対する魅力の遡及を目的として実施されている企画で、高校の学年・学科ごとに分かれて大学の各学科の内容を紹介しています。

また、仙台南高生が行う課題研究に対し、大学の教員陣が約半年間、直接指導を行う「アカデミックインターンシップ」も実施されており、平成25年当初は8名の参加者でしたが、8年目を迎える令和2年度は29名の参加が予定されています。さらにアカデミックインターンシップに参加した生徒は、約65%が東北工業大学に進学し、かつ、80%以上が直接指導を受けた研究室がある学科に進学している、といった実績もあります。もちろん、アカデミックインターンシップへの参加が、東北工業大学

への進学条件になっているわけではなく、高校全体で例年約100名の生徒が東北工業大学に進学しています。これもKJ協議会で検討・実施された施策によって、生徒や保護者にとっての東北工業大学の認知度が向上した結果とみています。

東北工業大学への進学を目指す生徒に対しては、入学後を視野に入れた「基礎学習講座」や入学決定後の「入学前教育」を実施しており、これも大学の学修支援センターと高校教諭が連携して行っています。

こういったさまざまな施策により、一人ひとりの学生・生徒にとって高校から大学に至る7年間の学びの礎となる、他には見られない独自の高大連携が実現されていると言えます。

近年では、大学と高校が連携し小中学生を対象とした企画も実施されており、法人内に止まらず対外的な連携事業も推し進められています。

今後もKJ協議会を中心に、内外から魅力ある大学、魅力ある高校と評価していただけるよう、教職員が一丸となって高大連携事業を展開していきたいと考えています。



テクノフォーラム風景



仙台南高生を対象とした小論文・面接対策講座



「KJみらいLABO」による小学生プログラミング大会風景

### 各支部との情報交換会の開催

各支部と日程調整を行い、オンラインによる情報交換会を予定しております。

開催日や聴講方法については、同窓会HPにてお知らせいたします。

なお、情報交換会のHP掲載お知らせをメールアドレスにて連絡しますので、ご希望の方は同窓会事務局まで、メールアドレスをお知らせください。

また、一昨年より開始した同窓会メールマガジンや同窓会主催のイベントなどの配信も行いますので、併せて同窓会事務局まで、メールアドレスをお知らせください。

### 第45回工大祭(大学祭)の会場開催の中止について

10月17日(土)・10月18日(日)の2日間で開催を予定しておりましたが第45回工大祭は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年通りにキャンパスに一般来場者を迎え入れての開催は困難であると判断するに至り、会場開催を中止することいたしました。

※同時開催予定のオープンキャンパスは中止とし、「ONLINE学科・入試個別相談会」を開催いたします。

工大祭に向けて発表や出展を計画していた皆さま、開催を楽しみにしてくれていた地域や同窓会会員の皆さまに心よりお詫び申し上げます。何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

なお、会場開催は中止となりましたが、インターネット上での「オンライン工大祭」(仮)を11月28日実施に向けて計画中です。

<同窓会からのお知らせ>

## 東北工業大学同窓会 第36回定時総会について

今年度の同窓会定時総会は、新型コロナウイルス感染対策のため、書面審議といたします。

つきましては、総会資料を会員の皆様（会費納入及び送付先を把握している方）へ、「工大人」に同封し送付いたします。ご意見・ご提案がありましたら、下記同窓会事務局にFAX、E-mailのいずれかの方法でご連絡ください。

### 【議題】

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| <1>令和元年度会務・事業報告について   | <4>令和2年度予算（案）について |
| <2>令和元年度決算報告・監査報告について | <5>その他の協議事項       |
| <3>令和2年度事業計画（案）について   |                   |

### 【期限】 令和2年11月12日（木）

※ご承認いただける場合、特に返信の必要はありません。

定時総会がこのような形になりましたこと誠に残念ですが、会員の皆様にはご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

---

東北工業大学同窓会事務局

mail : dousoukai@tohtech.ac.jp    FAX : 022-305-3337    <http://koudai-dousoukai.net/>

---

## <住所変更及びメールアドレスのご提供について>

皆様のご住所等に変更があった場合には、同窓会のホームページから更新が可能です。

また、同窓会では登録された同窓生に、メールマガジンの配信を計画しております。

メールアドレスも住所変更と同様にホームページよりご登録ください。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

発行：東北工業大学同窓会

事務局：東北工業大学キャリアサポート課内

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1

TEL.022-305-3336 FAX.022-305-3337

URL.koudai-dousoukai.net